

令和7年度 学校自己評価システムシート

学校評価委員会作成

目指す学校像	建学の精神「自立した個人の育成」を踏まえ、「質実・英知・愛敬」の校訓を具現化するとともに、新しい価値を創造する人材を育成する。
--------	---

重点目標	<ol style="list-style-type: none"> どのような力を生徒に身に付けさせるのかを明確にし、教育活動を見直し改善していく。 生徒の学習意欲や進路意識を高め、進路実現を図る。 安心で安全な教育環境を整え、規律ある学校づくりを推進する。 保護者(後援会)・同窓会・地域との連携を密にして、開かれた学校づくりを推進する。
------	---

達成度	A	ほぼ達成(8割以上)
	B	概ね達成(6割以上)
	C	変化の兆し(4割以上)
	D	不十分(4割未満)

※学校関係者・第三者評価実施日とは、最終回の学校関係者・第三者評価委員会を開催し、学校自己評価を踏まえて評価を受けた日とする。

出席者	学校関係者	5名
	事務局(教職員)	6名

※ 重点目標は3つ以上の設定も可。重点目標に対応した評価項目(年度達成目標を意味する。)は複数設定可。

※ 番号欄は重点目標の番号と対応させる。評価項目に対応した「具体的方策、方策の評価指標」を設定。

学 校 自 己 評 価						学校関係者・第三者評価		
令和7年度目標					令和7年度評価(令和8年3月31日現在)		実施日 令和8年3月21日	
番号	現状と課題	評価項目	具体的方策	方策の評価指標	評価項目の達成状況	達成度	次年度への課題と改善策	学校関係者・第三者からの意見・要望・評価等
1	<p>3コース制が4年目に入る。それなりの成果は収めている。生徒の進路希望などが異なるため、コース毎に設置したコース会議を活性化し学力の向上及び進路希望実現を図っていくことが課題である。</p> <p>「総合的な探究の時間」の中心に位置づけている研修旅行を、希望により海外と国内で実施する。その成果を踏まえて論文作成に繋げていく取組が課題である。</p>	<ol style="list-style-type: none"> ①コース毎に実施する独自の取組 ②グローバル人材の育成について、継続及び新規事業の取組 ③「総合的な探究の時間」の取組 	<ol style="list-style-type: none"> ①各コースの特性を踏まえたガイダンスや課題研究学習の充実を図り、生徒一人一人が適切な将来設計ができるような教育支援を行う。 ②オーストラリアサマーキャンプを効果的に実施する。インターナショナルプログラムのうち、海外大学進学説明(1、2年)及び夏の英語プログラムの具体的な運営と評価を行う。 ③1年次からの取組が、2年次でのテーマ別研修及び現地調査に役立っているかを検証する。 	<ol style="list-style-type: none"> ①生徒一人一人が将来を具体的に考え、計画を立てることができているか。 ②実施した事業について、生徒・保護者の満足度調査を実施し、その結果を次年度以降の改善に繋げることができたか。 ③各個人が決めた研究テーマに沿い、論文を完成することができたか。 	<ol style="list-style-type: none"> ①SAクラスでは、東京大学の研究室訪問、野村ホールディングス等を講師とした出張授業を実施した。いずれも満足度が高くキャリアデザインに有効であった。 ②ホストクラブ研修には11名、ニューゼラント研修には10名が参加し無事実施できた。ターム留学には現在3名の生徒が参加している。 ③研修旅行後にボスターによる成果発表を行った。現在、世界とつながる探究的な学びを教室で実践できるプログラム「Inspire High(インスパイア・ハイ)」を試験的に運用している。 	A	<ol style="list-style-type: none"> ○コース制が4年目に入り、総括を行い改善を進める。 ○英語関係のプログラムは生徒の満足度が非常に高い。グローバル人材の育成を目指し継続していく。 ○総合探究の開始から4年が経過したので、内容・実施時期など全体的に改善を図る。「Inspire High(インスパイア・ハイ)」の有効活用。 	<ol style="list-style-type: none"> ○東京大学の研究室訪問や野村ホールディングス等との連携は、とても良い取り組みであると思う。生徒の社会的な視野も広がる。様々な人との関わり合いが大事である。 ○探究学習の1年時では「私たちのまち」川越について理解を深める取り組みをしているが、地元川越市との連携は大切である。
2	<p>学習意欲を向上させ、自主自立の精神を養うための指導を継続して行っていく。引き続き、自学自習の習慣化の定着を図っていくことが課題である。</p> <p>進路指導関係では、将来の職業を見据えた大学選びや学部選びが主体的に行えるように進路指導を行っている。そのために、1年次からはじまる進路計画で一人一人の進路実現を図るため、3年間の段階的なプログラムを実施していくことが課題である。</p>	<ol style="list-style-type: none"> ①学習習慣の確立と平日の学習時間の増加 ②自学自習を促すための環境づくり ③主体的・自主的な進路選択力の育成 ④教員の資質向上への取組 	<ol style="list-style-type: none"> ①担任がクラスシーを有効活用し、日々の学習記録の確認を積極的に行い、学習時間を増加させる。 ②特別自習室と図書館の自習スペースの有効活用を進める。併せて、安全対策についての方策を検討する。 ③本校が発行している「進路情報の手引きとデータ編」を計画的に活用し、HRを中心に発達段階に応じた進路指導を実施する。予備校講師による特別 YG ゼミを実施する。 ④授業評価アンケートの実施や研究授業等を通して授業改善に取り組み、授業力の向上を図る。 	<ol style="list-style-type: none"> ①生徒の学習意欲や生活リズムが維持できたか。昨年度と比較して家庭学習時の時間が増えたか。 ②昨年度と比較して2つの自習室の稼働率が上がったか。 ③系統別分科会(1年次)、ブース形式で行う学校別分科会(2年次)等を通じて、進路意識が高まったか。また、高大連携事業が生徒の進路実現に繋がっているか。 ④生徒の学校満足度調査の結果から、教員の授業力が向上したか。 	<ol style="list-style-type: none"> ①昨年度の下半期反省結果と比較すると、学校全体の平日の学習時間はほぼ同じである。 ②特別自習室は常時20名以上が利用し、試験週間では、満席状態である。 ③各学年で進路行事を行い、段階に応じた進路指導ができた。昭和女子大学との高大連携型特別入試に続き、今年度から杏林大学との高大連携事業を開始した。 ④本校の教育を総合的に評価しての満足度は学校全体で約77.5%であり、昨年度とほぼ同様の結果が得られた。 	B	<ol style="list-style-type: none"> ○家庭学習時間の確保と定着が課題である。さらに授業改善により、学習意欲を向上させる工夫が課題である。 ○特別自習室は、夜間に使用する生徒の安全対策と教員の適正な勤務管理の確立が課題である。 ○大学での講義受講や入試での連携の他の高大連携事業も検討していく。 	<ol style="list-style-type: none"> ○先生方の進路指導、面倒見がとても良い。感謝している。 ○1年生から進路に対する意識付けが、なされている。 ○授業が分かりやすい。 ○大学見学会に理系の大学も入れてほしい。
3	<p>生徒は規律ある学校生活を送っている。今後も生徒がさらに主体的に判断し、他者と協力・協働できる意識を醸成していくことが課題である。</p>	<ol style="list-style-type: none"> ①基本的な生活習慣の確立 ②部活動・生徒会活動・学校行事の充実 	<ol style="list-style-type: none"> ①風紀委員会が実施している「校則見直しのためのアンケート」を継続して実施し、生徒指導部を中心に見直しを進める。 ②コロナ禍後の部活動・生徒会活動・学校行事等について、生徒の主体性を育む観点から、教育活動全般について見直し、さらに活性化させる。 	<ol style="list-style-type: none"> ①校則の見直しをすることで、生徒がより主体的に校則をとらえ、守ろうとすることができるようになったか。 ②生徒会主催の学校行事で、主体的な活動が見られたか。部活動の実績が昨年度同様かそれを上回ったか。 	<ol style="list-style-type: none"> ①現在、女子生徒の髪型について見直しを進めている。また、風紀委員会が生徒諸規定の見直しに向けたアンケートを実施した。生徒指導部が中心となり、社会の変化に対応した校則の見直しを進める。 ③文化祭は、生徒が主体的に活動できた。吹奏楽部、剣道部などが全国大会に出場するなど部活動での活躍が見られた。 ④主権者教育、年金に関する講座等の講演会を行った。また授業では消費者教育を行った。 	A	<ol style="list-style-type: none"> ○風紀委員会の活動を通じて、生徒が校則に対する理解を深め、自分たちのものとして守っていく態度を培うことが課題である。 ○継続的に学校行事を見直し、新しい取組を実施していく。 	<ol style="list-style-type: none"> ○雪の日の靴はローファーでなくてもよいとのクラッシー配信は保護者にもしてほしい。 ○文化祭の開催通知は、近隣の家庭には届けて欲しい。
4	<p>保護者や地域との連携を密にし、学校行事や部活動の様子をタイムリーに発信し、開かれた学校を目指す。</p> <p>昨年同様に中学校・塾や地域との連携を密にし、教育実践や教育活動についての広報活動を推進し、生徒募集に繋げていくことが課題である。</p> <p>教材研究や事務作業などで教員の勤務時間が長くなっている。働き方改革を推進する必要がある。</p>	<ol style="list-style-type: none"> ①信頼にこたえる開かれた学校づくり ②情報発信と生徒募集の強化 ③教員の働き方改革の推進 	<ol style="list-style-type: none"> ①今年度は定期的に委員会を開催し、各委員からの意見を参考にして、開かれた学校づくりを推進していく。 ②HPやインスタグラムなどをとおして学校の最新情報を発信し続ける。また、教職員が丸となり、学校の特色を強く打ち出して塾訪問・中学校訪問・個別相談会等を実施していく。 ③生徒の遅刻管理(遅刻確認システム)の電子化に取り組む。クラッシーの申請提出物フォームの利用を始める。また、非常勤講師の先生方にiPadを貸与する。 	<ol style="list-style-type: none"> ①委員と教職員が意見交換を行い、その成果を学校運営や改善に役立たせることができたか。 ②学校説明会や個別相談会を通じて、募集人員に関する分析を行い、目標とする定員確保ができたか。 ③教員の超過勤務時間の削減ができたか。業務の電子化・脱判子化が進行したか。 	<ol style="list-style-type: none"> ①両委員会とも年2回実施し、有意義な意見交換を行った。 ②学校説明会を7回、個別相談会を5回、イブニング相談会を3回実施した。昨年度に引き続き、生徒の姿を前面に打ち出した学校説明会にしている。また、今年度新たにSA対象学校説明会を実施した。その中で、卒業生体験談を取り入れ、75組150名の参加があった。生徒募集に効果をあげたと考えられる。 ③生徒の遅刻確認の一部を電子化し、教員の負担を軽減するように努めた。リフレッシュデーの呼びかけをした。 	A	<ol style="list-style-type: none"> ○評価委員会を定期的に開催し、より開かれた学校づくりを推進していく。 ○引き続き、生徒を前面に打ち出した説明会を実施し、生徒募集に役立たせる。 ○教職員の働き方改革を継続して改善を検討する。 ○リフレッシュデーの周知の徹底を図る工夫が必要である。 	<ol style="list-style-type: none"> ○今年はインスタグラムの配信が多かったのよかった。 ○クラッシー、インスタグラム、ライン等を使い更なる情報発信をしてほしい。 ○新入生が606名とは素晴らしい、評価されていることである。それだけ山村学園高校に入学したい生徒が増えていることである。 ○生徒の遅刻確認の一部を電子化したとのことであるが、今後紙の作業を少なくすることが大切である。

